

## 「関西学院スポーツ史話 上ヶ原篇」まえがき

母校体育会を語る時、偉大な指導者であり、関学体育会育ての親とも言うべき米田満先生の存在を抜きに語ることは出来ません。

米田先生は 2 年の歳月をかけて、2003 年 6 月「関西学院スポーツ史話―神戸・原田の森篇」を上梓されました。

この米田先生渾身の一冊には、1889 年の学院創立時から約 40 年間に亘る神戸原田の森時代の運動部各部の活動・戦績等が生き生きと綴られ、草創期の母校の様子を後世に伝える貴重な記録となっています。

米田先生は、その「あとがき」に次のように記されています。

「さて、『関西学院スポーツ史話―神戸・原田の森篇』は当然つぎの『上ヶ原篇』を指向する。でも、私自身の力で本書と同じようなものを作るのかどうか。それでも衆知を集め、組織を整えて『上ヶ原篇』作成に向かうことはできる。その方向付は私の責任だと考えている。」

「あとがき」に記されたこの言葉こそ、私ども体育会の後輩が米田先生から賜った重たく大きな宿題でございます。

「あととは君たちで力を合わせてつくりなさい」…先生はそう仰っておられるのです。

「原田の森篇」が上梓されてから何と 22 年という歳月を費やしてしまいましたが、今般ようやく「上ヶ原篇」を世に出すことができました。

しかし、甚だ残念ながら、この宿題を直接米田先生に提出することは叶いません。先生は 5 年前の 2020 年 8 月、92 歳にして人生の旅路を終え、神さまのみもとへ昇って行かれました。

ご生前に先生へお届けできなかったことは心底悔やまれますが、「みんなで力を合わせて作成せよ」とのご指示については、何とか守ることが出来ました。

きっと先生は天国で目を細めて読んでくださっていると思います。

「先生、遅くなって申し訳ございませんでした。先生の筆力には到底及びませんが、体育会の OB・OG で力を合わせて書きました。そして、これからも母校体育会の活躍を記録に残して参ります。見守っててください。」

「上ヶ原篇」は、米田先生のご意志を継ぎ、硬式野球部 OB の大西禧充先輩(1964 年卒)が陣頭指揮を取り、K.G.A.A にて役割分担を決めて早々に取り掛かりましたが、その後間もなく大西先輩が不帰の客となり、紆余曲折を経てようやくこの度 K.G.A.A のホ

ームページで配信する運びとなりました。今は、この間のさまざまな事が胸に迫り、感慨深いものがございます。

最後になりましたが、各部の記録を寄稿いただいた全ての OB・OG、編集の労をお取りいただいた K.G.A.A 副幹事長(広報委員長)の親谷誠司 OB はじめ、常任幹事の皆さんに心より感謝申し上げます。

関西学院大学体育会同窓倶楽部 元木 雄三